格差が顕在化してくるのではないかと思いますね。新産都市あるいは農業構造改善事業によってそれぞれ明るい面が出てくる一方、工業開発の日の当らない、構造改善事業の指定を受けられない。いわゆる繁栄の谷間をどうするか という事が、新しい県政の課題になってくると思う。地方行政の任務というものは、そういった日の当らない部分をキメ細かな行政で救済していくという点にあるような気がするのですがね。

F　そうですね。たしかにそういうギャップをどこかで埋めていかなければならないと思います。

司会　県とは、行政系列のなかでも、中間層に位置しているわけですが、その仕事として、さきの谷間に日を当てるという面では民労、衛生関係の特色ある仕事もあると思うのですが……。

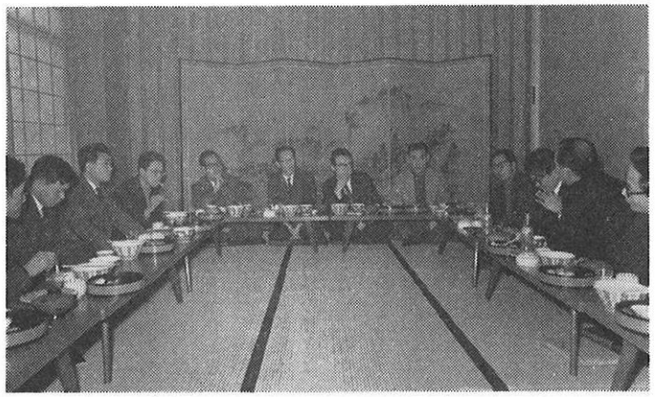
C　民労、衛生の方、最近は非常に充実してきたのじゃないですか。

H　他との比較ができないから、はっきりはいえないが、私もそう思います。ただ、キメ細かな行政をやって行く上で、県が今どんな事業をしているのだということ、あるいは、県に今どんな事業をやってもらいたいのだという、県と県民両者の意志疎通が十分に行なわれることが必要なんじゃないかな。

D　確かにPR不足というのかな、県の各部で、今どんな仕事をやってるかサッパリ判らないことが多いな。県庁舎の問題にしたってもっと住民にね、県庁の所在は経済効果の面から、住民福祉の面からこんなにつながりがあるんだという点の理解を深めなきゃいかんと思うんですよ。

県民につながる県庁舎

司会　それでは、当面する問題としていろいろあろうと思いますが、県庁舎の問題の今後の方策などといった点をお話しいただきましょうか。



C　最初、県庁舎の問題がでてきた時、知事は、第三者的な学者とか建築の専門家とかで、委員会を作って審議してもらうと云われていましたね。ところが、結果的には日の目をみずに議会に特別委員会ができた。そこがまず問題のでてきた処だと思うんですよ。ことに具体的な運びになった場合に、専門的な調査機関がないというのはまずいのじゃないだろうか。

A　県議会は県民の代表だから、ここで十分審議を尽してもらえばいいということかも知れないけれど、地域の代弁というか、利害といったものが全くないとは云えないから……。

E　いや、むしろね、地域の代弁にもなっていないかも知れない。県民とのつながりの点で、県民が直接政治に参加する権利を行使しているのは、選挙の時だけに終っているような気がしているんですが――もっと市民、県民と議員とは密接につながらなきゃいけないと思います。

D　まあ、お嫁さんもらう本人が、これこれの候補者からみなさん、一人だけ適当な人を選んで下さい、じゃね。要するに、執行部でできるだけの事は尽して、適当と思う候補地を一つ選び出して、議会にはかるという形をとらなくちゃ。

C　結局この問題が永くかかっているのは、リーダーシップを誰がとるのか、はっきりしないからじゃないですか。

A　政治的な処理よりも、やはり調査機関なり何なりに諮問し、それを議会に出すという正攻法ですね。定石を踏んだ方が良いようだ。

E　特別委員会を解散する必要はないと思うんですよ。今までずい分勉強もされたし、決して無駄じゃなかったと思う。熊本市と執行部同志ジックリ話し合ってもらいたい。もともとこういったものは、事務的なものなのだし、この際頭を切替えてもらって早く解決したいものですね。おそらく三月までには立派にかたがつくことでしょう。そうあってほしいものですね。

人づくりと県民運動

司会　如何でしょうか、県政の今後の方途については。

H　私が県外から来て感じた事は、熊本県は観光を一つの看板にして来たと思っていたのですが、その実体はまだまだ観光を売りものとする状態じゃないと思ったことですね。

D　まあ、今までやってきたんだから、もはや項目として落ちているものはないでしょう。だから、今まで薄かったものは厚くするとか、もっと効率的に、重点的に力を入れるとか、こういったところじゃないですか、今後は。

C　施策は別として、施策を推進する体制づくりですな、これをもっと真剣に検討すべきと思う。つまり人づくり、じゃない――人えらびですね。

司会　人づくりがちょっと出ましたが、実は最近、農村の若い労働力の流出、あるいは後継農民の問題があちこちで検討されているようですが。

A　これについて悲観的な見方をする必要はないと思いますね。というのが、自立経営農家など廻ってみるとすばらしく優秀な者が残っていますよ。しかも、高校、農高を出た二十四・五才の優秀な青年がですね。植木とか、阿蘇とか、周辺には良い人がいる。少くとも、良いのが出て行って、クズが残っているんだというのは当らないですよ。

E　それにしても、県はもう少し県独自の施策があっていいんじゃないかな。例えば、宮崎のサップ運動。別に金がいるわけではなく、立ち遅れた農業を引き上げようという。いささか精神運動的な色彩もあるけど、こういったものはかなり県の事業として効果あるものと思うんですがね。

司会　広島を中心として、中国地方で、行なわれている父子契約制とか、今云われた農村運動については、県でも検討しているようです。

さて、最後にですね。知事の政治姿勢といいますか、県政にのぞむ姿勢といった点でご意見ありませんか。

格調高い県政へ

B　まあ、今や、幸にして、一応政治的な力のバランスの上に県政が立っていると言えると思います。で、その安泰ムードを続けたいという知事の気持はわかりますが、無理をしてでも安泰ムードを持続させて行く必要もないと思うのですよ。少くとも政治が究極的に住民の福祉を指向しているものならば、政治のバランスを考えるよりも住民の福祉のために、あえて安泰ムードを破ってでも、断固としてやり抜くという強い姿勢が、時には必要ではなかろうか。何によらず、格調の低い安泰ムードでは、県民の福祉に反するような気がします。

司会　一選目の、いわゆる火中の栗を拾うような、ファイトが欲しいという……。

I　そういうことですよ。もう少しファイトを持って、行政をやってもらいたいという事ですよ。熊本県を停滞の中から脱却させるためには、多少の抵抗も排除しながら進まなければならんと思うのですよ。

F　たしかに一選目は、八方ふさがりで、どうにもやりにくかったと思うのですが、今度は、中央感覚の白いハンカチじゃなくて、雑巾に握りかえたと、知事自身思っていると思う。

G　県民と一緒に歩く県政、というか、スローガンはどうでもいいですが――それを実現させる方法ですね。今までどんなシステムを敷いていたか知りませんが、もっと知事が直接県内を歩く、そして、直接住民の声を聞くこと。

A　それから庁内体制をもっと充実することですね。各部の間にまたがる問題など、もっと時間をかけて討議する場を作るとか、内部の有望な若い芽をのばすとか、本当の意味の庁内チームワークを確立することですね。

D　良い意味の知事ブレーンが必要でしょうね。

司会　どうも、長時間ありがとうございました。

（文責・広報課）

■　お知らせ

海外派遣青年を募集しています。

優秀な青年に広く海外の視察をさせ、青年の国際的視野を広めるとともに、国際親善に役立てようとするもの。

年令は二十才から二十五才まで

詳しいことは、

市町村役場、教育委員会または、県婦人児童課へお尋ね下さい。

（三十二頁から）

月間、私の家に合宿でした。私たちがこの仕事をはじめる際、経済力にもそれぞれ差があったのですが、むしろ人物本位に選択したことがよかったのじゃないかと思います。」という。泊り込みで石と斗うひと月。共通の目的を持つとはいえ、よほどの同志的結びつきがなければできないことだろう。

息の長い勝負

農場の管理は、第一、第二とそれぞれ責任者をおき、二名づつ交替で当番にあたっている。国庫の融資をうけた事業であるため、工期に制約され、いきおい突貫作業になってしまった。だから彼等が「満足すべき状態」までには、まだまだの出来だそうだ。年間計画は年一～二回開く総会で決められるが、責任者が召集する作業打合わせの集会が頻繁に持たれるのもそういうわけだ。

ともかく十三人の青年重役たちは、創設期の苦しい二年間をやり抜いた。でも、妻帯者の中、最若年の福島正人さんが「本当にフトコロに入ってくるとは、私たちの子供の代ですタイ。」というように、おそろしく息の長い仕事ではある。第二の難関「融資の据置期限の切れる四年目」がもうすぐやってくる。が、小岱山に晴れの勝名乗をうけることは間違いあるまい。

（Y）